

# 逃すな海外交流のチャンス

(船場 拓真)

上田西高校といえは「国際交流」と言ってもいい。つい先日モグアムのサイモンサンチェス高校の生徒が留学に来たり、オーストラリアCCGSのロウ校長先生が来校されたりと頻りに海外の学校との交流がある。毎年留学生が本校に来るたびにホームステイ先を全校生徒に募っているが、受け入れを自ら希望する生徒は昔に比べれば積極的になっているという。

しかし、留学への参加は年によって違うものの年々減りつつある。長期留学は平成15年の13人が参加者の最高人数で、ここ数年は2〜6名と少人数が続いている。短期研修はCCGSとの姉妹協定ができた当初は20〜30名と大変多くの生徒が参加していたが、今はその半分程度まで減ってしまった。先方の受け入れ態勢の問題もあるが、せっかくの素晴らしい留学制度だから大いに活用したい。

留学や修学旅行で交流を体験した生徒たちは分かるが、外国人は日本人とは違い皆本心にフレンドリーだ。それにさえ慣れてしまえば、言葉が通じずともジェスチャーやアクティビティを通して交流することは簡単だ。長期留学に参加した生徒はそれを魅力に思ったからか、英語に対して積極的な姿勢がみられる。ハイレベルな英検に挑戦したり、毎回ホームステイを受け入れたり、留学センターに毎日行ったりと、留学前に比べ確実に英語への意識が変わっているはずだ。

筆者もCCGS短期研修参加経験者だ。豪州へ行く

前は言葉が通じるとか、英語を聞きとれるかとても心配だった。実際話したくても英語が分からず伝えられない歯がゆい思いは沢山あった。だが、ほぼ単語だけで話しているような自分たちの英語を、相手も必死に理解しようとしてくれていた。留学をきっかけに嫌いだっただと英語が好きになり、外国語の大学に進学したいと思ふようになった。他にもグローバル化が進む現代では社会人になっても英語に携わるシーンは沢山あるはずだが、実際に留学へ参加するきっかけをつかむには、その交流の楽しさを知る必要がある。英語の授業に留学生たちが参加するところがあるが、それは最も身近にある外国人との交流のチャンスだ。

歓迎会で西高太鼓を披露することもとてもいいことだと思ふ。和太鼓は日本特有の文化だからだ。他にも西高にしかない何かをアピールできたらいと思う。日本は全国的に志望者が増えてくる傾向にあり、推薦入試での合格は難しくなっているという。そのため基礎学力をつけ、強い気持ちで受験に備えることが大切だとおっしゃった。

(飯高)

本文化を知り興味を持った生徒がまた西高に来てくれ、交流が繋がってゆくといい。

留学には勇気もいるし経済的な問題もあり、簡単に決められることではないが、決めることはしない。迷っている人は留学の説明だけでも受けてみてはどうだろうか。これからも西高がさまざまな国と良い関係を築いていけることを祈っている。

## 吉田さん 信大医学部医学科合格

信州大学繊維学部で1月18・19日に行われたセンター入試でI類から6名、II類から34名が受験し、センター利用の一般受験だけで延べ29名が合格した。昨年に比べ、今年の受験人数が少なかったため合格者の割合は高いという。センター入試利用での国立合格者は昨年の6名より1名多い7名という結果だった。

### あきらめず 目標へ前進

なかでも快挙となったのは、平成23年度卒業の吉田恭義さん。3年間の浪人を経て、信州大学医学部医学科に合格した。吉田さんは宮崎貴紀先生のクラスの教え子。宮崎先生は当時の吉田さんについて「3年間、正副ルーム長を歴任していた。明るく周りからの信頼も厚かった」と話した。ソフトテニス部に所属していた吉田さんは、当時、部にコーチがいなかったため選手をしながら技術の指導なども行っていたという。

卒業後は、冬の受験直前には、進路相談や面接、小論文の指導を受けるため、頻りに学校を訪れていた。吉田さんは予備校などには通わず、自宅での通信学習

で勉強をしていた。浪人2年目には精神的に追い詰められ、苦しんでいた時期があったが、メリハリをつけた生活を意識的に送ることを意識し、試行錯誤したこととで乗り越えることができたという。また「志望大学に合格するためには努力をすること。かけがえのない仲間と切磋琢磨し、受験を乗り越えてほしい」と後輩へメッセージを語った。

進路主任の丹羽貴先生は受験を控える生徒に対して「センター入試を含め、一般入試は努力した分上位の大学を目指す。推薦入試であつても学力が必要になってくる」と念をおす。昨年度は、センター受験者はII類中心。それ以外では一般入試受験者が少なく、推薦利用での受験者が多かったという。

### 今年の看護は 一般入試多く

ただし、推薦入試での合格者が出なかった看護系は一般入試のほうで全員合格という結果だった。看護系

リ一研 今年度は1か月前倒し開催

リーダー研修会が4月19日(土)に西高で行われた。各クラス代表2・3名の生徒が参加。今年の西高祭の参考にするため昨年の西高祭のスライドショーが流され、レクレーションも行われた。

お昼には西館前の中庭でバーベキューを行い、学年を超えた交流を深めた。その後西高祭の後夜祭の恒例行事でもあるジンギスカン、



みんなでダンス練習

リーダ一研研修会が4月19日(土)に西高で行われた。各クラス代表2・3名の生徒が参加。今年の西高祭の参考にするため昨年の西高祭のスライドショーが流され、レクレーションも行われた。

お昼には西館前の中庭でバーベキューを行い、学年を超えた交流を深めた。その後西高祭の後夜祭の恒例行事でもあるジンギスカン、

今年度も、千西一週を読んでいただきます。今回の新聞では僕は海外交流を主に担当しました。大変だったのは、海外から来た皆さん言葉が通じないことでした。そのため通訳をお願いし多くの人に協力してもらいました。今回の取材を通して言葉の壁の高さを実感しましたが、それを全く感じさせないほどの人々の優しさや温かみがあり、学べたことが多く

とても良い経験になりました。今回の経験を今後記事を書く際に活かし、またこれからも取材などをしていく中でたくさん学習し頑張っていきたいと思ひます。

(市村)

# 卒業生 大きな夢へ一歩

昨年度 受験実績



現役時代の吉田先輩(宮崎先生提供)